

原子力友の会 総会（第10回） 議事録（案）

開催日時：2022年3月9日（水）17：30～19：30

方 式：オンライン Zoom ミーティングルーム

案内配信数：268名（校友会事務局にて管理されている本会のメールアドレス登録のある会員数）

出席者（敬称略）：本多庸郎、川久保政洋、石丸卓、渡邊諒、近松優真、鎌田凌河、松井隆祥、菊地漱祐、吉川将志、鈴木徹、河原林順、松浦治明、内山孝文、羽倉尚人（14名）

（西日本プラント工業（株））入江寛和さん、柴田伸久さん

配布資料：【原子力友の会】第10回総会資料一式 R01.pdf

議題及び報告

1. 本多会長挨拶

2020年度は資料の配布のみでメール審議という形であったが、今年度はオンラインではあるがリアルタイムに集まる会を開催することができた。来年度はぜひ対面で交流する場を7月か8月頃に企画できたらよいと考えている、とお話を頂いた。

2. 前回総会からの主な出来事

前回議事録の確認を行い了承された。

2020年1月31日（前回の総会に当たるメール審議の最終日）以降の本学における出来事についての紹介があった。

3. 「原子力友の会賞」について

2020年度は6名に授与したことの紹介があった。また、2021年度の発表会における審査についても紹介があり、6名が選出されたことが紹介された。今回は10回目ということで、第1回からの受賞者と発表タイトルの一覧が紹介された。

4. 会計報告

2020年度の会計報告がなされ、監査の確認済みであることも説明された。資料の中では、2021年度分についても紹介することとしていたが、学位授与式に合わせて新規入会者（卒業生）の入会金の徴収が行われるので、次回の総会において報告することとした。

本報告に対して、新規入会者への案内は行われたのか、という質問があり、この総会の後で卒業予定の4年生に対してメールにて案内するとの回答があった。また、今年の卒業生分の記念品については数が足りているのか、という質問があり、昨年追加した分で賄えることを確認していると説明があった。

5. 活動計画

2022年度の活動計画について説明があった。コロナ禍により変更になる可能性があることも併せて説明された。

6. 予算計画

2022年度の活動計画に合わせて、例年通り、友の会賞や卒業記念品に関する支出についての説明があった。活動計画と同様にコロナ禍における不透明な状況があるので、必要に応じて幹事会にて検討の上、運営していくことも併せて説明された。特に、学生の活動支援を目的とした支出については適宜検討していくことが紹介された。


7. 最近の本学及び原子力安全工学科の状況について

学科主任教授・鈴木徹先生からのご説明に先立ち、司会の羽倉から今年度学科として JABEE

(一般社団法人日本技術者教育認定機構) 審査を受審し認定された旨の紹介があった。それに関連して、学科の学修要覧にて定めている「目指す技術者像」について卒業生の皆様からご意見を頂きたいと依頼があった。引き続き、鈴木主任教授よりスライドを使って最近の本学及び学科の状況について紹介があった。入学志願者数が近年順調に伸びていることや主な就職先についても紹介があった。



本多会長挨拶



本学科の特徴と最近の動向

- 全国でも数少ない原子力・放射線関連の学科
- 原子力だけでなく、機械・電気・物理・化学も一通り学べる
- 平成29年度より45人定員、広範な出身県分布
- 大学院に進学すれば早稲田の学位も取得
- 就職内定率は毎年100%
- JABEE(日本技術者教育認定機構)による審査を受審

2

鈴木主任教授による学科紹介

以上

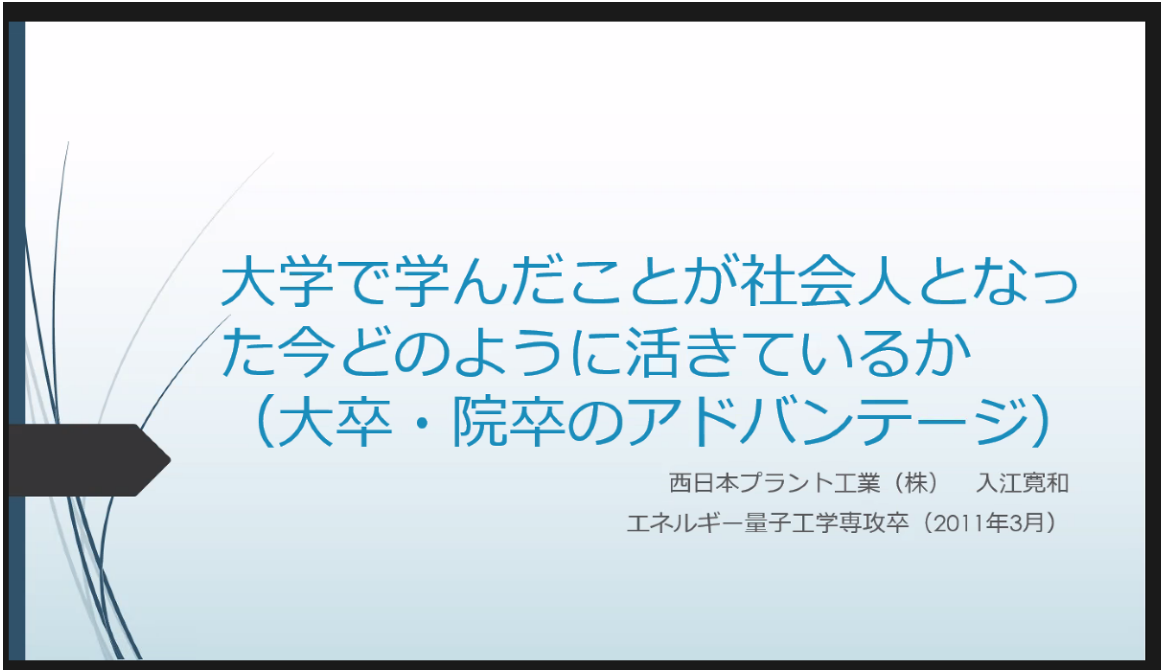
【講演会の部の紹介】

総会に引き続き、講演会の部として本学工学部環境エネルギー工学科を2009年に卒業し、2011年に大学院エネルギー量子工学専攻を修了された入江寛和さん(西日本プラント工業(株))に「大学で学んだことが社会人となった今どのように活きているか(大卒・院卒のアドバンテージ)」と題してご講演いただいた。大学・研究室で学んだこととして、専門的な知識だけではなく「思考力」「調査能力」「プレゼンテーション力」「各種コネクション」が重要であったと感じているとお話された。トラブルに直面した際に根本原因が何かを考え解決のための道筋をつける思考力、仕事を進める上で、先輩社員から聞くことも大事だが自ら調べることができるという調査能力、自分の仕事の成果を上司に説明できるプレゼンテーション力、新規事業を立ち上げるといった新たな業務に向き合う際にいろいろと情報を収集するための社外のつながりという意味での各種コネクションが非常に重要であると感じており、大学生活でぜひとも身に着けておくべき重要なこととして説明された。本講演会には入江さんの上司にあたる柴田伸久さんにもご出席いただき、川内原子力発電所での業務のご経験をご紹介いただき、原子力・放射線の分野を大学で学んでいる学生に向けて専門知識として学んだことが現場で生かされる場面があることをご紹介いただいた。

講演後の質疑応答・意見交換の時間では、参加したこれから就職活動に向かう学生から様々な質問が投げかけられた。将来どのような技術者になりたいかといった目標はあるか、という質問に対して、「専門としていることを誰よりも理解し、「彼に聞けば大丈夫」と言われるようになりたい」と思っている。また一方で、会社としては誰か一人だけが知っているという状況はあまり良くないとも思っており、職場の中での技術や情報の共有も重要ではないかと感じている」と回答があった。意見交換の中では、学生時代に授業で法令に関するものがあり面白くないと感じていたが、社会人になってあらゆる法令や規格に触れるようになり、もっと勉強しておけばよかったとか、法令の独特な表現に慣れておくだけでも意味があったといった感想が聞かれた。また、学生さんに対してきちんと日本語が書けることも重要なスキルだとのお話があった。

今回、卒業後10年ほどの若手・中堅にあたる卒業生から主に学生向けとしてメッセージを伝えるという趣旨の講演会を企画することができ、先輩後輩のつながりの場である同窓会(校友会)として有意義な時間を持つことができた。学科の教員にとっても非常に参考になる部分が多く、校友会を通じて学生にも良い刺激を与えられればと感想を持った。

(文責：羽倉)



大学で学んだことが社会人となった 今どのように活きているか (大卒・院卒のアドバンテージ)

西日本プラント工業(株) 入江寛和
エネルギー量子工学専攻卒(2011年3月)

目次

- ▶ 自己紹介（在学中の研究内容、就職後の仕事内容含む）
- ▶ 卒論（修論）内容と就職後の仕事の関連性
- ▶ 入社後に実感した（大学で身に付けておくべき）重要なこと
- ▶ まとめ
- ▶ 質疑応答
- ▶ フリーディスカッション（原発で働くことのアレコレなど...）

ご講演の目次

なんでアドバンテージがあるのか

高校まで



授業形式
(先生から**教えてもらう**)

大学の研究室



研究・ディスカッション形式
(自分で**考えて、調べて、試して、結果を発表する**)

*「素材ラボ」「イラスト屋」より引用

ご講演スライドからの抜粋